

令和4年度中間報告書に対するご意見まとめ

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる

小林委員長	[目標設定の理由] に関してですが、「横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要云々」の記載を評価する。「美術館」は、一般的には、美術品を収集・保管・展示し、一般の展覧・研究に資する施設となるが、それを「都市資源」として位置づけた点に、今後の美術館の運営に、従来の概念的枠組みを超えた、新しい位置づけが期待できる。そのためにも、「都市資源」としての美術館について一歩踏み込んだ整理が必要になるのではないのでしょうか。
柏木委員	多彩な展覧会関連事業の実施や、外部連携による計画的な集客の取り組みなど、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナを見据えた事業展開を高く評価します。
川口委員	企画展では大河ドラマの影響があったものの「運慶展」の広報活動、テレビ放送が集客に繋がったと考えます。今後も積極的な情報発信を期待します。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

小林委員長	[目標設定の理由] についてですが、「横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環云々」とありますが、そこに「労働ではなく」という言葉が介在し、「社会教育の一環」という展開になっているのですが、その辺のことでお話が承れればと思います。また、「ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、中略、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています」とありますが、「新しいコミュニティ」とは、どのようなことを想定してのことでしょうか。
柏木委員	ボランティア活動の再開は慎重を期して段階的に再開する必要があると、数値目標の未達見込みは予測不能な条件の帰結だと思えます。
川口委員	安全安心からのコロナ禍による活動縮小は当然です。ギャラリートークに代わる「ボランティアによる所蔵作品の解説文」に期待します。

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

柏木委員	周年事業に相応しい、地域の文化的な特質を勘案したバランスの良い展覧会事業が着実に実施されています。運慶展は、出品作品の脆弱性に鑑み多くの困難が伴ったと推測しますが、内容さらに集客においても館の実力と存在感を発信できたと考えます。
川口委員	英訳、演劇部部員による音声解説、手話動画、などは正に多様性の時代に即した画期的な試みとして評価します。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

意見なし

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

柏木委員	美術品の購入が計画的に持続することを期待しております。
------	-----------------------------

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	
意見なし	
⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	
意見なし	
⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。	
意見なし	
その他	
川口委員	全体としてYouTubeでの解説動画、オンラインでのワークショップ、動画ガイダンスなど感染対策を講じた上での日々の努力・配慮が伝わってきました。